

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

こんにちは。議席番号は19番ですけれども、4番目の山口でございます。（「3番」「3番目ばい」と呼ぶ者あり）4番目です。（「どがんでんよか」「山口がさ」と呼ぶ者あり）4番目の山口でございます。東日本大震災で被災に遭われた方々の御冥福と今後努力されんことを、まずここでお祈りをしたいと思います。

それでは、4番目の山口でございますけれども、思いつきじゃなくて、市政の今後のためにと思いながら一般質問をさせていただきます。

今回の一般質問で3項目上げさせていただいております。1番目が新武雄病院の運営のあり方について、2番目が安全・安心について、3番目が道路行政についてということで出させていただいておりますけれども、まず1番目の新武雄病院の運営のあり方についてということで出しております。

なぜこれを出したかといいますと、ちまたではいろんな皆さん方がおられましょし、いろんな皆さん方のその口に戸を立てるといことはできないかと思ます。そういう中で、新武雄病院ができた、6月1日から開院をした。そういう中で、新武雄病院ができたがために国保税が上がるのではないかという話がちまたでは出ております。そういう中で、本当にそれが現実であるのか、あるいはそれこそ誹謗中傷じゃないですけれども、そういうふうなたぐいなのか、その辺についてまずお尋ねをしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとこれは制度がやや複雑ですので、パネルを使いたいと思ます。（パネルを示す）

まず、宮本栄八議員が、この栄八通信というこれ、何か怪文書かどうかわからないような、新病院の開設の影響か、3,000万円程度増加していると、こう書いてあるわけですね。もうこれはでたらめですね。まず、きちんと申し上げますと、この診療報酬改定、これは国の国策で全体改定率がプラス0.19%、約700億円の増になっているんですね。これは10年ぶりのネットプラスになっているわけです。ここで大きいのは、急性期入院医療におおむね4,000億円を配分して、ここでまた上がっておるわけですね。特に急性期のものが、救命救急ですよ、上がっているということで、新武雄病院があるからといって、そのものがあるからといって上がっているというふうにはならないわけですよ。

それで、次に進みます。（パネルを示す）

これもちまたのうわさでよく聞くんですけれども、療養諸費が高いんじゃないかということをおっしゃるけど、これは市を単純に並べました。高い鳥栖市から安い伊万里市まで並べると、ちょうど中間点なんですね。伸び率もほかと比べるとそんなでもないですよ。です

ので、これが今、武雄市が置かれている状況です。ちょうど10市の中で真ん中。これは20市町ありますけど、大体真ん中です。

(パネルを示す)で、新武雄病院なんですけれども、これも公式に出ている数字を出しますと、大体こういう感じなんです。皆さん方から見て右の部分が平成18年6月から22年12月、大体総じて言えば上がっているんですよ。これは、先ほど申しあげました急性期病院についてはどこもやっぱり、これは全国どこもそうなんですけど、こういう中核病院、あるいは救急告示病院というのは上がっています。その中で、武雄の場合は赤で記載しましたがけれども、嬉野医療センターとか佐賀大学医学部病院、白石共立病院を上げました。これは全部公開されていますけれども、これを見たときに、じゃ、新武雄病院だけ突出して上がっているかということについては、私はならないというふうに思っていますので、何でいまだに新武雄病院がこういうふうに言われるのか、もうかわいそうでなりませんよ。ですので、あんまり宮本栄八議員におかれても、栄八通信で書くのは自由ですけれども、あんまりでたらめを書いてほしくない、このように思っております。(「上がった理由は何なのか」と呼ぶ者あり)

○議長(牟田勝浩君)

19番山口昌宏議員

○19番(山口昌宏君)〔登壇〕

今、横しで上がった理由は何なのかというようなお話を議員がされておりますけれども、私、2年ぐらい前から、ある人の話をいろいろと勉強させていただいております。その中で、山口、おまえはすぐかあつとなる、あるいは目のぎらぎらしておる、ずっと言われながら、そういうふうなところがあるのかなと。かといって、サバの腐れたごたる死んだ目でもまたいかんやろうしと。そしたら、どの辺をいくか。やっぱり人間は自然に素直に生きらばいかんのかなというふうに思っております。

そういう中で、先ほど栄八通信という中で話がありましたけれども、その中にこういうふうなことがあるんですよ。設計屋さんの名前が書いてあった。要するに病院の場所のところ、設計屋さんの名前が書いてあった。それを見て、やっぱり癒着じゃなかろうかというような書き方がここにされております。ひょっとしたらこの問題については私のほうが宮本議員よりも詳しくかもわからん。というのは、これそのもののもとには東川登の方です、出身が。そういう中で、この話があったときに私は本人さんに聞きました。その設計会社に勤めよったら、その人は会社員としての、その会社の守秘義務があろう。その守秘義務も守らんような人やったら、その会社ではなかなかおりにくかろうと、そのお兄さんに言いました、これを言うた本人に。それは本人いわく、もううちの妹は早う首になったもんねと、そんな話なんです。

それともう1つ、ここに書いてある部分で、もう正式に設計事務所の名前が書いてありま

す。佐藤建築設計事務所というのを書いてありますけれども、この佐藤建築設計事務所なんていうのは本体の新武雄病院の設計はしていないんです。全くのでたらめなんです。この新武雄病院の設計をした設計の会社は、平建築設計事務所という設計会社です。その孫請か下請か知らんですけれども、佐藤建築設計事務所というのは確かにありました。

それで、こう書いてあるところは、「癒着性のある出来レースで合ったのではないかと改めて思う」と書いてある。「合った」というこの字は、これは本当に合っているんですかね、漢字として。

〔市長「合っていません」〕

そういう中で、この辺について、余りにもひど過ぎるんじゃないかと思っているんですけど、その点についてどう思いますか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これをどう見るかですよ。（栄八通信現物を示す）真つ当な議員の議会報告と見るのか、それともワイドショー以下の怪文書と見るのか、だから、その見方によって、あんまり目くじら立てんほうがいいのかなというのも思いますけれども、ただ、これは議員が書かれているものですので、ここはやっぱりしっかり追及しなきゃいけないと思いますよ。言うてもわかんされんと思いますけど、でも、これは市民の皆さんたちが、かなりきょうごらんになられているそうなので、あえて申し上げたいと思いますけれども、まず議員が出来レースという言葉です、懲罰にもかけられたみたいですけども、こういうふうな公式の文章に出すというのは、私は正直言って見たことがありません。その中で出来レースと評されることは、民間移譲に応募された2法人の名誉を著しく傷つけることなんですね。私は市を代表いたして極めて遺憾なことだと思っています。市民病院の民間移譲先を決定するに当たっては、公正公平に決定することが何より重要、そして徹底して情報の公開を行ってまいりました。その中で、信友委員長を中心として、第三者から成る武雄市民病院移譲先選考委員会を設置したわけですね。その中で、委員会の答申に基づいて移譲先を決定します。選考の途中では、応募した法人による説明会を公の場でも行いました。この状況は、ケーブルテレビでも中継をされています。選考委員会の会議概要は、終了後、委員長が記者会見で一回一回ブリーフィングをされています。後日、議事録、選考委員会の委員氏名を公表いたしております。このように、移譲先医療法人の選定は、適切な手続を踏んで公正に進めてきたというのが手続論としてやっぱりあるんですね。

これは最後にしますけれども、私もいろんな議員、国会議員、県会議員さん、市会議員さんを見てきましたよ。おつき合いがあったり、いろんなのありますけれども、これほどひどいのはないですね。もうこれだけに限らず、本当にこれは誹謗中傷のあらしで、これを市

民の皆さんたちが、やっぱり市議会議員ですからね、信用されるということに私は問題があるというふうに思いますよ。ですので、私からすれば、これを市民の皆さんたちに信用するなど、そういう高飛車なことは言いませんけれども、ぜひ栄八議員が書かれていること、そして我々が、例えば答弁で言っていること、いろんなことでぜひ比較考慮をしてほしいと。だから、我々の言うことだけをうのみにする必要はありません。ですが、いろんな意見の中で何が一番正しいのかというのを、それが私は参加型民主主義だと思いますので、ぜひそれは市民の皆さん方をお願いをしたいと、このように思います。

○議長（牟田勝浩君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

そして、ここに書いてあることが、「市民病院の問題は、民営化改革に名をかりた癒着性のある出来レースで合ったのではないかと改めて思う」と書いてあります。それで、私が画策したわけでも何でもなかとですけども、きょう、たまたま朝、ある病院の偉い方から電話がありまして、佐賀弁じゃなかけんですね、山口さん、こういうふうな言い方で言われたんですけども、実は今、裁判、要するにどうしようかと考えておる、この問題について。ここまで出来レースとまで書かれて、我々、今から武雄に根を張って病院運営をしていかなければいけない。そういう中で、出来レースとまで書かれたとに私たちも黙っておくわけいかんやろう。私たちだって顧問弁護士はおります。法的手段をとろうかなと今病院内で話をしておりますというような話でした。けさです、それは。

それともう1つ、金曜日の一般質問の中で、私もまさか、また前々回か何かずっと前の一般質問の資料を引き出してまで質問ばせんばいかんとの出てくるとは夢にも思わんやったわけですね。それは何かというぎ、要するに訴訟の問題ですけども、21億6,121万531円の訴訟がなされておりますよね。その中で、金曜日の一般質問をされた25番議員の質問の中で答弁があったのが、9億1,538万円になったという話がありましたけれども、その辺についてちょっと答弁を求めたいと思いますけれども。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

正確に申し上げます。私ももうびっくりしたですね。21億6,121万531円が訴訟の額だったんですね。私にそれを支払いなさいという額だったんですけども、突如9億1,538万円に減額をされたんですね。原告は、平成23年6月2日に請求の趣旨の縮減申立書を佐賀地方裁判所に提出、請求の趣旨を縮減するとした。その中で、請求額を9億円弱というふうにしてあるわけですね。もちろん平野議員もおっしゃったように、減額というのはあるんですね。増額というのものもあることはあります。私も裁判にかかわってきましたから、あることはあり

ます。しかし、21億円が9億円ですよ。ユニクロでもこんなにまけませんよ。もともと訴訟で21億円となったのが20億円に減額されるとか、ですよ、平野議員。本当にこんなでたらめなものはないですよ。市民をばかにするにもほどがありますね。本当に裁判をするというのは、住民訴訟であっても何ら、民事であっても、刑事であっても、本当に重いことです。それをこんな思いつきみたいな21億円と言って、今9億円と言うのは、本当に記者会見を同席された平野議員に聞いてみたいですね。ですので、そういう意味で、だんだん興奮してきたので、この辺でやめますけれども、この請求額の変更に関しては、私はまこともって不可解だと思っています。

○議長（牟田勝浩君）

19番山口昌宏議員（発言する者あり）

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

よかでしょうか、質問して。（「どうぞ」と呼ぶ者あり）よかですか。

なして私が聞いたかというのと、要するに21億6,100万円に対しての訴訟費用なんでしょう、1,260万円は。しからば1,260万円の訴訟費用は、減額になったら、それに見合うだけにまた減額になるわけですか。その辺、答弁求めます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとすみません。先ほどちょっと、やや私に珍しく興奮しましたので、何でこういうふうに変更されたかというのを、これは弁護士からも許可を得ていますので、それをちょっと申し述べたいと思いますね。

この縮減した趣旨なんですけれども、原告側は、昨年5月10日付の訴状にあった土地、建物を安く売ったのは違法とする主張、1ベッド1,000万円という価格ですね、これはフランソワベッドでも1,000万円ないですよ。で、医療機器の無償貸与は違法と主張しておんさったわけです。あるいは医療機器の購入を駆け込みで決定し、購入したことは違法というふうに言うておんさったとぼってん、この3つが全部今回却下、自分から。だから、構成要件の3つが全部、3本柱が全部落ちておるとですよ。この前、どなたかの議員に言いましたけれども、普通、構成要件って柱ですもんね。柱を全部取っ外したらどがんなるか。屋根全部落ちます。で、それにもかかわらず、原告はがん言いよんさるとですよ。平成23年6月2日に佐賀地方裁判所に準備書面の、今度5ですね、5回を提出。不動産価格について主張、立証を行う予定なしということを言われたので、何でこれで裁判が続くのかということは、まず先ほどの答弁に補充をしたいというふうに思っていますけど、ただ、じゃ、これで弁護士費用が安くなるかと。なりませんよ。我々は21億円という算定根拠や、物すごく困難な、こういう巨額な、あの橋下知事も驚くような、私の友人の共産党の友人ですら——私も共産党

に友人おりますよ、ここの方は違いますけど。本当にこんな巨額な、もう乱訴みたいなのは聞いたことないと言っているんですよ。

その中で困難な困難な中に弁護士さんにも引き受けてもらって、この裁判の構成からしてこれだけの価格があるということで議会にお願いして、議会で可決してもらったわけですね。それを今さら、21億円が9億円になったとって、弁護士費用を下げろなんて言えませんよ。しかも、延びているわけですよ。もう7カ月延びておるけんが、私、冷や冷やしておるですよ、追加の要求されるとやなかろうか。そいけん、このごろ電話切っておるですもんね、もう。ですので、そういう状態にあるということはぜひ、そいけん、逆に損害賠償請求ばしてくれんですか、本当。私は被告ですので、それもできません。ですが、これは、私は本当に重大に損害を与えていると思いますよ、市民の皆さんたちに。ですので、心ある、もう山口昌宏議員みたいな方が、やっぱり住民訴訟じゃなかった、もう住民訴訟したらいかんです、損害賠償請求も一つやっぱりあると思います。これは行政がするわけにいかないんですよ。私、訴えられているほうですから。ですので、こういうことが起こるということをぜひ市民の皆さんたちに御理解をしていただきたい。これこそ、どぶにもうお金捨てるようなものです。これをぜひ御理解していただきたいというふうに思います。

○議長（牟田勝浩君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

実は、私も損害賠償請求ばするべきじゃなかかいと思ったとです。それは何かといたら、1,260万円の、要するにこの根拠というのは、21億6,000万円に対しての1,260万円なわけでしょう。そういう中で、請求額というか、今度出し直した9億1,500万円やったら半分以下ですよ。半分以下やったら裁判費用も半分以下にしてもらわんぎ、武雄市民の余りにもかわいそうじゃないか。そういう中で、損害賠償請求を出したらどがんですかと言おうかにやと思うておったぎ、市長が、いや、ほんなごてそっちからしてくれんですか、市からは出されんけんがというような話なんですね。まさに、例えば、これが半分になったとすれば、1,260万円というぎ600万円ばかりか、約600万円ばかりは減額になるわけですよ。そがんとぼ考えるぎ、簡単にしてほしくなかわけですね。

それともう1つ、まさかがん言わんばらんと思わんやったとぼってんが、今、今回の分で135床のベッド数とか医療機器の分についてはもう削除されておる。私は一般質問でずっと前にも言った。21億6,121万531円のこの根拠だって、ちゃんと計算したら出ております。この間言ったことも、135床のベッドの1床当たり1,000万円、13億5,000万円ですよという話が出てくるわけですね。そういう中で、13億5,000万円の根拠は何かいと。だれがどがん考えても、これは出てこんわけですよ。それはなぜか。武雄市が国から移譲を受けて市民病院になしたときに、例えば、1床当たり100円でも金を出しておったら、いんにやさと、10年

間で1,000万円の価値になっておるといふ考えは100%できんとは言えんですよ。

〔市長「そう」〕

ところが、株だってそうでしょう。100円で買うたばってん、売るときは500円でなりと売るときにや1株当たり400円のもうけやもんのと。そういうふうな考えで持っていったら、100円でも買ってあったら1,000万円になっておったよという可能性はあります。しかし、武雄市は、それを移譲を受けた上に、国から13億円ぐらゐの補助金をもらって、土地をかうてみたり、あの辺の整備ばしたですよ。逆なんですよ。そして、医療機器の無料貸し付けはだめですよ。全部払ってください。もつてのほかなんです。そのときに私何と言ったか。医療機器の、例えば、757品目の中の中です、全部で計算するぎ何億円になるか、私はわかりませんよ。無償で貸したけんが賠償しなさい。武雄市民の命からしたら、武雄市民の命はそが安かとかんと私はそのとき言うたですよ。これば見たら、その中の、757品目の中の653品目はもう耐用年数なかわけですよ、その当時で、新武雄病院になった時点でもうなかわけです。あと残りは100品目ぐらゐしかなかですよ。そいぎ、よう考えたら、あと100品目しかないですけれども、今月の6月1日から新しい病院に移転して開業をし始められました。そのときには、その100品目の中の50品目はもう耐用年数過ぎておるわけです。その表をどこかでもらいましたよね、前に。それをずっと計算した分なんです。それで、残りは新武雄病院に仮に持っていきますよと言ったって、757品目の中の40品目ぐらゐしかもう持っていかれんごたる状態なんです。そいぎ、そこの40品目を金に換算したら、どがん高う見ても6,000万円ぐらゐしかなかですよ。そこで皆さん方に考えてもらわんばいかんことは、武雄市民の5万何千人ですか。

〔市長「1,000人」〕

5万1,000人の命というのは、たった6,000万円なんですか。余りにも武雄市民の命を軽く見ておる、私に言わせればそう思うわけですよ。生命保険だって、近ごろは交通事故のときの保障は無制限と書いてあるですよ。そういう中で、武雄市民の命ばたった6,000万円ぐらゐに見てもらったら大迷惑、逆に。そのぐらゐにですよ、武雄市民のことをどう思われて訴えられたのか、私はわかりません。しかし、方法があれば、今後、その賠償請求に対しての1,260万円の武雄市が皆さん方の血税で払う、その金をどうにかして、例えば、半分にでもなるのであれば、本当に裁判にでも持っていきたいと思うわけですよ、再度その辺について答弁求めます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、本当に心情的にはもう全くそのとおりですよ。もう本当に、これまでの間に武雄市民の血税が1,260万円も支弁されているわけですよ。前、平野議員だったと思いますけれ

ども、これは高過ぎるのではないかというふうにおっしゃったんですね。でも、これ、1,260万円が多い少ないの話じゃなくて、もう1円でも2円でも、この費用がもしほかのに使えれば、私は福祉に、みんなのバスとかに使いたいですよ。だから、訴えた、お先棒を担いだ人がこれを高いんじゃないかとかと言う資格がそもそもあるのかというのはやっぱり思いますよね。

〔25番「お先棒で何ですか」〕

お先棒ですよ。その上で記者会見同席しているじゃないですか。その上で、お先棒を担いだ議員がそういうふうにおっしゃること自体が私は不遜のきわみだと思いますよ。

その中で、私がぜひ申し上げたいのは、じゃ、それを、さっきちょっと言葉が過ぎて、訴えてくださいというふうにとちょっと申し上げたんです。これは言葉が過ぎました。これを市民の皆さん一人一人のこととして考えてください。その上で、私は市民の皆さんたちの、これは議員も含めてそうですけれども、もう良心良識にゆだねたいというふうに思います。私が訴えろとかなんとかということになると、それはまた、被告ですので、それは真摯に、謙虚に自分の立場というのをわきまなきやいけないと思っていますので、ぜひ私は、先ほど山口議員からも指摘があつて、私も答弁しましたけれども、ぜひこれね、自分の税金の問題、あるいは自分たちの医療の問題として、それと本当にこの住民訴訟で、私のイメージが棄損されるのはいいですよ、私は。しかし、武雄市のイメージが本当に悪くなっている。いまだにいざこざがあるのかと。それは言いましたよね、山口議員。あそこ、仙台に行ったとき、開口一番言われたですもんね。ああ、あそこ、病院でもめておるところでしょうと。私はそういうことで有名になりたくないですよ。元気で一生懸命やっているという意味ではすごく武雄市も評価されていますけど、病院でいざこざの起きておるでしょうと言われて、もうあのときやっぱり涙の出たんですね。ですので、そういう意味からして、ぜひこれは、実際、裁判を応援する方々にもぜひ申し上げたいと思うんですけれども、実際、もし私を訴えたい、私は嫌われていますよ、好かれてもおりますけど、嫌われている人には言いたい。私がもしこれで着服をしているとか、あるいはこれで不法行為を行っているとかというのを見つけたとき——していませんよ。見つけたときに、ぜひ住民訴訟じゃなくて民事で私を訴えてください。私はそれを、江原議員いらっしゃいませんけれども、平野議員と江原議員には政治家仲間としてぜひそれは言いたいというふうに思います。損害賠償請求については、私はコメントする立場にありませんので、この辺にさせていただきたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

今、一生懸命探しよった。前の質問のときに江原議員の言われたことばずっと探しよって、あら、さっきあつたごたつたなと思って見て、江原議員、何と言われたかというぎ、訴えら

れた原告の皆さん方と自分と一緒に今から頑張っていく覚悟ですと、それは議事録にきちっと載っておるわけですね。それは、前のときに議事録を写してここに書いておったとですけども、ちょっと今ないですけど、わからんですけども、そういうふうになのかなという思いのある中で心配をしております。

それと、先ほど、まだいまだに新武雄病院ができたがために国保税が高くなったんじゃないかという話があるということで、私、ちょっとお尋ねをしましたけれども、その中で何で私がこれを言ったかという、ある武雄市でもそれなりの地位のある方で、それなりの職についておられる方です。その方が結構あちこちで、例えば、あそこの病院ができたけん国保税の上がっていくばいという話をあちこちされておるような形跡というか、皆さん方から聞くわけですね。そいぎ、そういう中で5月22日がオープンセレモニーやったとですかね、病院の。そのオープンセレモニーも、その方にも案内状が行っているわけです。

〔市長「だれね」〕

名前は言うたらやっぱり失礼になるかなと思ってから、ちょっと今言っておりませんけれども、その方にも案内状が行っております。それで、案内状が行って、その方ほどがんされたかというぎ、その日、何じゃい北方でゴルフのコンペがあったそうですね、町民コンペ。それで、旧武雄市の人ですよ。その人はどこにおらしたかというぎ、そのゴルフのコンペにおらした。そういうふうな、それなりの地位のある方でそういうふうなセレモニーにも来ないでしよらす人に、何かそういうふうな中傷だけはしてほしくないですね。

そいぎ、おととい、おなかの痛かったけん、何か上品かごたっ言葉でおなかの痛かったと言いましたけれども、それで病院に行ったわけです。そいぎ、今度の院長さんが西田先生なんですね。そいぎ、西田先生、病院に話を聞きよったら、新聞の1面に宣伝じゃなかですけど、新武雄病院として載っておったですよ。そいぎ、その新聞ばひどく握りしめて、「この人をお願いします。この先生に診てほしか」と言うて来た人が何人もおる。それはクラークさんの、クラークさんというのは病院の先生と患者さんとの合い中を持つような人、その人がそう言われた。そいぎ、普通の平日の日は午前中で外来受け付けはもうやむっとでしよう、ようわからんとですけど。そいぎ、その先生に限ると言うぎおかしかばってん、終わったとは夕方5時半やった。そのくらいにその先生の名前というのは大変なものかなと。うちの武雄の市長もそのくらいになってくれたら、もっとお客さんもふえるのかなと思ったとですけどね。

そういう中で、日本全国一律であるはずの税金が、病院の診療の点数が、何でそんなに曲げたような言い方で言われるのか、全くわからんわけですよ。そういう中で、この新武雄病院というのは、もうできて、皆さん方の、武雄市民の命を守ろうという気持ちになっている中で、何でそこまでせんばらんとかなという気持ちでこの質問をさせていただきました。

それでは、次の2番目、安全・安心についてということで行きたいと思います。

私は実は、2番議員、1番議員、3番議員と、要するに皆さん方と一緒に被災地のほうに行ってきましたけれども、まず安全・安心の面から教育委員会のほうにお尋ねをしたい。

それは何かといたら、ボランティアで行って、帰ってきてから、たまたまボランティアで行って朝帰ったんですよ、武雄に着いたんですよ。朝着いて、すぐ東川登の相撲大会ということで会場に行ったときに、あいさつをするときに、やっぱり私も興奮しておったとでしょうね。皆さん方の前で話をするときに、被災のことをちょっとだけ話したわけです。そいぎ、そのとき涙の出とまらんとです。相撲大会のあいさつの中でですよ、子どもたちに話をするとき。そして、その後、校長先生からちょっとお話がありますということでお話を聞いたときに、ぜひうちの小学校の子どもたちに話をしてもらえんかという話だったので、私でよければということで、まず話をする前に、山口等議員、あるいはほかのメンバーの議員さん方の写真があったわけですね。いっぱい写真を撮っていただいております。そういう中で、その中から100枚ちょっとぐらいの写真を校長先生にまず先に上げておいて、これをどうされるかは私もわかりませんでした。しかし、何をされたかという、その写真を廊下に張られたようです、ずっと。そして、子どもたちが見た。そして、子どもたちが何をしたかという、一口の感想文をまず書いた。そして、その後、5月27日だったと思うんですけれども、27日に子どもたちにお話を1時間程度させていただきました。そのときの内容が、（パネルを示す）これが小学校なんです、4階建ての小学校。それで、この一番上が屋上。荒浜小学校です。これが体育館なんです。こういうふうな状況です。そしたら、先ほどの、まことに申しわけないですけれども、松尾陽輔議員の質問の中で、避難場所が60%が体育館だった。これは、仙台の荒浜小学校というところの体育館なんです。もう体育館、まさに何もありません。きれいに完全に壊れております。そして、この4階建て、屋上に上がった人たちは助かった。その下は助かっていないわけです。それくらいにひどかったのが今回の津波。それで、その小学校を中心に、その周りに700戸、700戸といたらちょうど東川登の全戸よりもちょっと多いくらいか、橘ぐらいかな、700戸の家があった。ところが、行ってみたら一軒として家がない。それくらいにひどい津波であったということなんですよ。

私は何が言いたいかという、学校の危機管理が悪いとか、いいとかじゃなくて、幸いにして武雄市は山です。山ですから、津波はまず来ないでしょう。しかし、橘だって標高でいったら8メートルぐらいかな。北方もそんなものですよ、標高でいったら。この太さの津波が来たら、ひょっとしたら橘までだつてとまるどころがなかったら来るかもわかりません。しかし、逆に考えれば、津波は津波でも、山つきにつくった学校というのは裏から来るわけですね、今度は山の津波が、土砂が。そういう中で、学校のほうとしてどのように考えておられるのかをまず御答弁求めます。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

学校の安全対策につきましては、先日のお尋ねにも答えたところでありますが、それに加えて、今度、市で計画されております新防災計画にも対応した形で見直しを行っていきたいというふうに考えております。

○議長（牟田勝浩君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

考えておらんことの起きたとが今回の地震であり、津波であったと思うわけですね。そいぎ、こればどがんするですかと言ったところで、確かに今のような答弁しかできないと思います。でも、私が27日に小学校に行ってお話をした後、5日ぐらいしてからだったですかね、校長先生が私の家に来て、「山口さん、こればちょっと見てください」と言って持ってこられたのがこれです。（資料ファイルを示す）これは何か。校内学習会の東川登子どもたちの作文集、東日本大震災から学んだことということで、全校生徒の子どもたちが作文を書いてくれたのがこれなんです。全部のこれなんです。そいぎ、危機意識というのを本当に持っているんだなと。今回の地震と津波に関しては、本当に子どもたちが関心を持って考えているんだなということがよくわかります。

一つだけちょっと読ませていただきますけれども、「話を聞いて、「生きようとする気持ち」という言葉が印象に残りました。私たちはふだん、生きようと思い、生活しているわけではないからです。被災地では、お米はあるのにガスがないなど、いろいろと不便なことがたくさんあるのだそうです。当たり前のことできない、考えたことなんてありません。山口さんの話を聞き、当たり前のこと当たり前でできることに感謝し、一日一日を大切に生きていきたいと思います」、この文は小学校の6年生なんです。小学校の6年生だってこう思っているんです。

そしてもう1つ、3月11日でしたから、3月12日、13日にいろんな方からお手伝いをしていただきながら募金活動をしました。その募金活動の中で、今回、本当に特に感じたこと、これは何だったかということ、まず子どもたちの関心が高かったということなんです。よくよく考えれば、24時間コマーシャルなしでこの災害のことについてはテレビ放映がされました。それが本当の原因かもわかりません。しかし、私が思ったことは、「おじちゃん、私たちにも募金のお手伝いをさせてください」、来たのが、ことし新しく卒業する武雄高校の生徒だった。今度卒業したですね、3月で卒業した生徒だった。そして、市長と皆さん方が広報活動をされた。そして、その中で何があったか。子どもたちが、おじちゃん、みんなで募金をしているところに貯金箱、その貯金箱も缶の貯金箱もあるでしょうし、木の箱の貯金箱もあるでしょう、そういう貯金箱を本当にたくさんの子供たちが持ってきてくれた。それと、高校生は茶髪、金髪はいないかもわかりません。しかし、若い世代の青年といえますか、少

年といえますか、彼らが、茶髪、金髪の子が、さも恥ずかしそうに、本当にこれば何とかしてよという気持ちで貯金箱を持ってきてくれた。そして、こんなことを言うつもりはなかったですけども、たまたまきょうケーブルワンの今あそこに来ております彼が、それこそ缶々に入った貯金箱、瓶やったとかな、瓶か缶々に入った貯金箱、彼がイの一番に持ってきてくれた。何で見たか、ツイッターで見た。ツイッターで見て、いても立ってもおられんで、今回の震災に関しては本当にもうかわいそうだ、自分でできることは今のところこれしかないということで彼が持ってきてくれた。そのときに私が思ったことは、うーん、まだ日本も捨てたものじゃなかな、この子どもたち、この若い世代の人間がおる以上、絶対東日本も復興する、絶対もとに戻る、そう思ったわけです。

そこで教育長、今私が申しましたような、今回の関心事として子どもたちが特に強かったというその思いをどう受けとめられますか。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

大変重い質問でありまして、たまたま相撲場で子どもたちに語りかけられて言葉に詰まられた場面も私も御一緒させていただいていたときだったわけです。確かにだれもがテレビ、新聞で報道は目にしている、実際に体を使ってボランティアをしてこられた山口議員の話というのは、直接的に子どもたちに響いていたわけでありまして。そして、いろんな子どもたちの感想とかも、私も校長から見せてもらいました。その後のいろんな報道の中で、日本人のモラルというか、そのあたりが随分取り上げられまして、そして、ある教育者は、これが教育の成果だというようなことを話しておられましたけれども、まだ私にはちょっとそこまで言える自信はありません。ただ、それが通じる子どもであり、日本人であったのではないかと、この1000年に一度とも言われるようなことに遭ったときに何ができるかと、国民共通して考える土壌というのは確かに素晴らしいことではないかなという思いであります。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょうど4年半ぐらい前にいじめが武雄市内の小学校でばあっと火がついたときに、私、全部の小学校を回って、子どもたちと市長の語る会というのをしたとですね。ちょうど精神年齢がほぼ一緒ですので、みんな聞いてくれて、そこから子どもたちの、いじめというのは悪いということがなったんでしょね。教育長もかわったということもありますけれども、そこからずっとやっぱり減ってきたんですね、表に見える部分は。で、私が先ほど山口昌宏議員と教育長のやりとりを聞きながら思ったのは、これはさっき質問がありましたけれども、京都大学で学生さんに火をつけてきたとですよ、気持ちに。ライト・ユア・ファイア、もう

火をつけてきて、とにかく自分たちもやっぱり現地に行こうということ。それは何でそう言ってくれたかという、やっぱり我々が行った経験を話したからなんですね。報道とは違うことを話したり、あるいは本当に自分はこういうふうに思っているということを言って、京大の頭のいい学生さんたちが、じゃ、おれたちも行こうというふうになったわけですね。そこで思ったのは、ちょっと話が、前置きが長くなりましたが、私、議会のお力をかりて中学校を回ろうと思います、中学校巡回。そいけん、武雄中、武雄北中を含めて、山内、北方、いろいろありますけれども、中学生にやっぱり自分たちがやってきたこと、武雄市の取り組みであったりとか、例えば、この議会の中にも8名の方が実際現場に行っとんさる人のおんさあわけですね。そういう人たちのお力もかりながら、直接もう話をして、やっぱり被災地というのはこういうふうにかわいそうなんだ。先ほどあったように、自分たちの生活がいかにかまれているか、親の愛情をいかに受けているかというのを、それを直接やっぱり話をしにいこうというふうに決意しましたので、教育委員会におかれては、その日程調整をぜひ進めていただきたいと思います。机の上の授業も大切かですけど、やっぱり行ってきたもの、あるいは自分たちが本当に、これは議会の皆さんたちももう一生懸命です。例えば、募金もしかり、さまざまな応援もしかり、そういうことでぜひここは我々政治家で、やっぱり次の武雄、日本をしょって立つような子たちに思いをつなげることが我々としての仕事だと思っていますので、ぜひそういう場をつくっていきたくて、このように思います。

○議長（牟田勝浩君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

その募金をしたときに呼びかけをしました。呼びかけをするときに、今あそこに、壇上に座っております議長が、本当に涙ながらに皆様方に、要するに募金を呼びかけて、今被災地はこうですよ。それで、いても立ってもいられず、自分の友達と連絡をとりながら今回の災害ボランティアだったんですけれども、（パネルを示す）今ここに写真がありますけれども、これは私たちがボランティアで行った家の帰る日の最後のときの写真なんです。何で私がこの写真をここに置いたか。まず1つ、この写真のですね、だれか1人写っておらんですね。これはだれなのか。だれか。下水道課に上田A君——B君が雄一というらしいですけれども、A君というのは哲也君、上田哲也君という職員がおります。彼が撮ってくれた写真なんです。彼は本当に正直な、顔は私と余り変わらんごたる顔をしておるとですけれども、意外と正直な人間なんです。彼が写真を撮ったんですけれども、我々8人議員が行って、そして彼がついてきたんですけれども、よくぞまた乗ってきたなど、わがまま軍団の8人の中にとまったわけですね。そして、今回のボランティアをした後、彼を見ていたら、何かさも自信ありそうな顔をしてから、このごろは一生懸命仕事をしております。何が言いたいか。やっぱり現地へ行って、ほんなごてして、ほんなごて厳しい目に遭ったときに人間というのは成

長するのかなと思ったものですから、ちょっと彼の名前を取り上げさせていただきました。

(パネルを示す) そしてもう1つ目は、ここに真ん中に写っておられる方が被災者の、私たちがボランティアで行ったところの夫婦なんですね。この方の奥さんのほうは、地震があつて、友達が「地震が大きかったね」と言ってきたときに、その話をしよつたら、海岸のほうから真っ黒か津波の来た。真っ黒か津波の来たけん、その人の車に飛び乗って逃げた。そいけん、私は何とか助かった。うちの父ちゃんは逃げそこのうとんさあと。佐賀弁じゃなかけん、そがんは言いんされんですよ。佐賀弁で言えばそうなる。そうして、500メートルぐらい先やったとかな、老健施設があつて、そこで拾われてと言つたら言い方おかしいかもわかりませんが、そういうふうな状態で助かつとんさあわけ、お父さんのほうは、御主人のほうは。そして、そのときに3日ぐらいは奥さんとは会えんで、3日ぐらいしてから会つたときに、ああ、お互いに元気でよかつたねという話をした。そういうふうな目に遭つておられるものですから、ここの片づけに行つた日、御主人、物も言わっさんとです。物すごい本当に憔悴し切つて、力なくて、物を言うてもらえんやつたですよ。ところが、最後の日、表情を見てもらえればわかると思うんですけども、何と言つたらよかとですかね、口ができた。要するに、自分たちが今から生きる目的を何にするかと、その口が見えたから物も言つていただいたし、ありがとうとも言つていただきました。

(パネルを示す) これはテレビで見たでしょう。これは名取市の船なんですね。このくらいにとにかくひどかつたというのが今回の地震であり、津波。一番ひどかつたのは津波でしょうけれども、そういう中で、口で幾らきれいごとを言つても、だれでも高かところ上れと。この人たちは、高かところ上るその高さのなかとですよ。

〔市長「なか」〕

極端な言い方をすれば、福富、白石が津波に遭つたという感じなんです。福富の人のどがらん高かところに上つても学校の屋上なんです。

〔「そうそう」〕

そういう中で、今から先に何が起こるかわからん。何というですか、もう天変地異というように、今の世の中というのはいつ何が起こつてもおかしくないような状況の中で、行政として何をしていくべきかという話なんですけれども、いかがでしょうか。

○議長(牟田勝浩君)

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もう私も現地に行って考え変わりましたね。やっぱり行政がするのは、確かに計画をつくるのも大事、あるいは訓練するのもそれはまた大事、それは大事です。しかし、真っ先に、やっぱり日ごろから一番何かあつたときに、やっぱりボルト並みに早う逃げることです。やっぱり行政の警報ですよ、大津波警報、最初、その若林地区は3メートルと言われよつ

たわけですね。そいぎ、その後聞いたら、その後10メートルというふうに変えておるわけですよ。変えておるばってんが、そのときには防災無線がもう電源が切れておって、その10メートルというのがみんなぬかっておらんわけですね。3メートルというとのぬかっておるわけですよ。そいぎ、3メートルあるぎ安心やろうもんと言っておんさった方々の命のやっぱり失われておるわけですね。その数300人ですよ。300人、一瞬のうちに。ですので、何を申し上げたいかという、やっぱり退却は自分の思う10倍にせんばいかんと。例えば、逃げるときでも、やっぱり助かっておる方もいらっしゃるわけですね、このよし江ちゃんみたいに、あるいはこの御主人みたいに。ですので、とにかく事があったときに、例えば、武雄は津波はありません。しかし、土砂崩れがあったときには、自分は、例えば、久津具の上野淑子議員はここに逃げようと、あるいはここに電話してここに行きましょうと。例えば、宮裾の黒岩幸生議員は、何か上からがアット水がおりてきたときに、自分は議員でもあるから、この人たちに、後川区長さんに言ってこういうふう逃げようという、具体的にやっぱり思うておかんぎんた体動かんですもんね。よし江さんと話したときに、やっぱり体の硬直して動かんやっつたと言いんさるですもんね。そいぎ、私聞きました。「そういう備えというのはしとんさったですか」て。しておるわけなかでしょうもんと。ですので、ああいう被害がいつ何どき起こるかわからないということを我々は絶えずやっぱり言わんばいかんというふうに思います、もうこれはおどしじゃないですけど。その上で、どういうふう逃げると。それと、どういうふう備蓄の何とかを置くかというのを自分のこととして言うためには、絶えずやっぱり言わんばいかんと思うですね。幸いにして、私は性格は物すごいしつこいです。受けた御恩も忘れませんが、もう受けたマイナスのことも忘れません。ですので、それをそういう思いで絶えず絶えず絶えず言うて、それで皆さんたちの自分の命とか健康は自分で守るということ、ぜひ私は自分の仕事の一環としても、最重要事項としても、議員の皆さんたちとともにやっぱりそれを進めてまいりたいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

大げさじゃなくて、大友よし江さんという方が言われたとで一番頭に残っておったとが何と言わしたか。「地震のひどかったね」と言って友達が来た。そしたら、自分の家が海岸から3キロメートル離れておる。そのときに、その3キロ向こうから真っ黒か津波の来た。そのちょうど3キロ離れたところに、何か電波の中継塔ですか、20メートルか30メートルぐらいのタワーがあったわけですね。そいぎ、その真っ黒か津波が来たときに、そのタワーば超えてきたと言わしたわけ。どがん間違っても、20メートル、30メートルあるタワーやけんが超えておらんでしょう。しかし、そのタワーの手前に来たときに波が上がったら、タワーはもっと先に見えますよね。そして、見る人は手前から見るものですから、タワーが全く見れ

んわけです。それで、タワーをのみ込むような形で来たというのは、それくらいに大きい津波が来たということなんですね。そいけん、要するに危機管理というのは、本ではできません。訓練もできますでしょう。しかし、それ以上のとが来たら訓練も、役に立たんと言ったらおかしいですけども、三十六計を決めるのが一番いいという話です。ばってん、3キロも4キロも走りきらんですよね、年とったら。命に縁のある人はそういうふうで助かっておられます。それでも、個々の意識を今から先はやっぱり持って行って災害に備えんばいかんのかなというのが今の偽らざる私の気持ちです。

それでは、次の質問に移ります。移る前に、2番議員が手紙を読んだときの、その手紙がこれなんです。（手紙現物を示す）これがそのときの手紙なんです、よし江さんから。その文面というのは、山口等議員から文面は読まれたと思いますので、文面は読みませんけれども、その中で私たちがしたら10年もかかるようなところを3日で、本当にその気持ちというのは、10年も幾らもかかるものですか、実際2人でされても。ただ、この10年という文面は何か。取っかかりのできた10年なんですね。それはやっぱり皆さん方も思っておって、何をするにしてもそうだと思うんです。2人ではまずできんことなんです。そういう中で、この文面というのは本当に重いものがあるな、行ったかいがあったなと思うわけですね。

そこで、市長にお尋ね。この文面を見たときに、人間として、市長として、首長としてどう思われたか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、行って本当によかったと思いました。その文面を見たときに、もうよし江ちゃんが必死になって書いておんさあわけですね。ワープロじゃなくて、もう本当に、言い方は悪いですけど、筆圧も物すごい筆圧で、やっぱり気持ちのこもっておったなと思ったとですね。そのときに、実は被災地に我々が行ったときに、そのよし江ちゃんの家は被災を受けて2カ月後に我々は入ったとですね。そのときに、ちょうど末藤議員と私が一緒におりましたので、よし江ちゃんとしゃべっておったときに、「2カ月たって初めてあなたたちが来ました」と言いんさったとですね。ね、末藤議員、そがんです。それで、必死になって我々は、ウズですよ、ヨシとか、アシとか、いわゆる土とか汚泥とかというのを、においとかにまみれながら、私は上田議員とペアを組んでやりましたけれども、とにかくほとんど全部出したと。実際、その後、実はその2週間後、私は陸前高田市に入った後にもう一回仙台市に入りました。ちょうど我々がやった後、2週間後。また変わっておるとですよ。先ほどありましたように、我々は全部土砂の搬出というのはやっぱりできんわけですね。たった8人プラス3人で11人です。雨が降ってきたけんが、途中でもう出んばいかんやったときもありました。しかし、その後見たときに、我々の行動がきっかけとなって、議員さんたちの行動がきっかけ

となって、やっぱり言うたとおりの入ってしておったとですよ。ですので、我々がやったことが呼び水になったということは、やっぱり人間の力というのは物すごく偉大と思いました。

それで、よし江さんがいみじくもおっしゃったのは、雨天の友は、雨が降っておるときの友は本当の友ですと。私ももし武雄市民の皆さんたちに何かあったときはイの一番に駆けつけますと言って、もう泣けたですね。それが私は本当に心温まる、それは人間しかできんことやと思います。そういったことをぜひ、被災地支援もそうですし、さまざま、今度10月にまたバスを仕立てて、山口昌宏団長のもとに、また市民、皆さんたちと一緒に被災地に、仙台の若林区に行きたいというふうに思っております。ですので、一人でも多くの議員の皆さんたちも含めて、あるいはきょう多くの方々が見られていると思いますので、ぜひ行って、実際、もう大分10月になるとまたサポートの中身が変わっているかもしれません。ですので、その時点に応じたボランティアの支援をぜひそういうふうに仕立てて、私ももし時間があれば一緒に行きたいと思っていますので、ぜひよろしくお願ひしたいと、このように思っております。本当に、もう最後にしますけれども、人間の持つ優しさとか、偉大さとか、ありがたさとかというのを痛感した文面でありました。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

あと30分というのがここに出ておりますので、次に行きたいと思っておりますけれども、いずれにしても、災害というのは、いついかなるところで起こるか分からないのが災害だと思っております。そういう中で、我々も含めて、やっぱりいついかなるとき起こってもいいような体制をとっておかなければいけないのかなと思っておりますので、皆さん方のふだんの気持ちを、災害に対しての心づもりをしていただいておりますので、皆さん方のふだんの気持ちを、災害に対しての心づもりをしていただいております。

それでは次に、道路行政についてということで出しておりますので、ちょっとだけ。

実は、これは小柳議員にも古川盛義議員にも何も言うておらんとですけれども、実はこれは震災の前だったと思うんですね、県議選のありよるころ——ありよるころというよりもその前に、あるという前に、武内でビラを配っていたわけです、県政報告会のビラを。そいぎ、そのとき、まだ寒くて、雪のちらちらしよったとかな、どがんかな、ゲートボールばしよらす人の小柳議員さん方の裏の辺におんさいたとですけれども、その人たちが私の顔を見て、おい、山口さんやろうという話で、「ちょっと来てん」と言われて行ったのがそのそもそものきっかけなんですけれども、「あんたさ、武内町の人口のがん減りよるとは何が原因じゃいわかつとおとや」と言われたわけですね。「いや、それはもろもろの原因のあるくさんた」て言いながらも、「ばってんさ、人間、生活ばする上では、やっぱり一番要るのは道路

やろうと。道路整備ができておらんやったら、やっぱり生活する上では一番厳しいだろう」という言い方なんですね。県道はまちきつとどがんじゃないせろさという話なんです。「実は、県道というのは県の管轄やけん県道ばい、市の管轄は市道というとばい」と言うたわけですね。そしたら、何と言われたか。「下から上ぐつとがあんたたちの仕事やろうもん」という話なんです。それで、よう考えたら、武内というところはよそよりかいっぱいあるわけですね。相知山内線が1つですね、それから梅野有田線が1つ、武雄伊万里線がある。もういっちょ何じゃいあろう、県道が3つか4つあるわけですね。その県道の整備ばびしゃっとせじにやて。そして今になったわけです。今になったというのは、さっきのもとに戻る震災なんです。それで、さっきの松尾議員の質問の中でもあったように、国の5%削減と、最終的に16%削減かな、それで無理やろうと。しかし、武雄市の道路の延長、これには農道まで書いていただいております。里道は別です。武雄市の中に約1,000キロ、ここから岩手県までぐらいあるとやなかかというような感じで1,000キロぐらいあるとですね。そこまではないですね。その中で、一般国道指定区間外と主要地方道、一般県道が114キロ、市道、農道合わせて1,000キロか、そいけん道路が1,114キロぐらいあるわけですね。そういう中で、県道に関して、どなたかの質問の中でもあったように、県のほうにどういうふうな要望活動をされているのか、その辺についてお尋ねをまずしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

現在、市内の県道につきましては、工事整備中が11路線ございます。11路線のうちの15カ所を現在整備中でございます。これは補助国道を含めてです。それで、それぞれ整備が行われておりますが、予算が若干少ないと、事業費が少ないという理由もあります。それからもう1つは、やはり箇所数が、要望箇所が多くて、県のほうがなかなか手が回っていないということで、今、佐賀県の道路の考え方は、幹線的な道路、例えば、有明沿岸とか、それから唐津側の道路、佐賀唐津道路ですか、それから国道498号も入っていますが、そういう幹線的な道路を中心に早く供用させたいという考え方のもとでやられておまして、一般県道とか主要地方道についてはなかなか現在のところ手が回っていないという状況であります。しかしながら、山内町におかれましては、4月26日に杉原議員、それから末藤議員、帯同いただきまして、関係4区の区長さんあたりと要望活動は行っていただいております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

この質問を何でしているかといったら、県道は県道でも、この質問をして皆さん方と聞き

取りの話をずっとしよったら、旧武雄市はそれなりに歩道もついておろうもんという話なんですね。そう言われてずっとしよったら、武雄伊万里線の赤穂山トンネルを越えた向こうのほうはついておらんですよね。そう言われればその辺かな、その辺はついていないなど。ただ、私がなぜこういうふうな質問をしているかといったら、東川登でもあったんですけども、たかだか一たん停止の大きい字を書いてくださいとずっと頼んでおったら、とうとう書いてもらえん。そしたら、そのときに私は何と言ったかと、「もしここで亡くなったら、その後書くとやろう」と私は言うたです。そしたら、本当にそこで亡くなったわけです。亡くなって2日目やった、「止まれ」と書いたのが。行政の仕事のやり方というのはそんなものなんです。例えば、県道の歩道をつけてくれ。命にかかわることだから、これをしてくれ。主要県道も大事でしょう。しかし、どこがどうじゃなくって、命にかかわる道路であれば、せめて歩道、それくらいぐらいはもう本当に力を入れて陳情をしていただきたい。武内の人のがん言わしたとは、もう本当に、まさに今はもう武内に限らず、西川登、東川登、若木、橋もそうでしょう、限界集落に本当に近い状況なんです。先ほどのみんなのバスじゃないですけども、何か買いに行く、それだって歩道がなかったら行けないじゃないですか。せめて命にかかわることだから、その辺は考えて、今後の道路行政、一生懸命頑張って、ない金の中でも、せめて歩道ぐらいはしていただけるように、市長を初め、執行部の皆さん方は、災害を考えたら額に汗して頑張って今後の道路行政をしていただきたい、そして市民の安全・安心を守っていただきたいということをお願いして、一般質問を終わります。